

令和8年度 前期

長野県内高校生による科目等履修生（先取り履修生）対象科目

シラバス

登録コード	L1820200						
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史概論Ⅱ【EA】						
英文授業名	Asian History: Introduction Ⅱ						
授業タイトル	中国近世・近代史						
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	集中
講義室	オンライン (オンデマンド)		読替科目				
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	学術的成果に基づき中国近世・近代史の概略を説明できるようになる。		
	【2022年度以前カリキュラム対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			⇔	学術的成果に基づき中国近世・近代史の概略を説明できるようになる。		
	2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	学術的成果に基づき中国近世・近代史の概略を説明できるようになる。		
授業の概要	【この授業は+毎週+eAlps上にオンデマンド動画を配信して進めます】 ユーラシア東部に位置する中国は、その領域を拡大・縮小させ、多くの民族を包含し、現在では世界経済の極めて重要な構成要素となっている。その歴史的な展開を、政治・経済・社会・思想・国際関係の各視点から総覧し、現代中国をめぐる諸問題の歴史的な背景について考える。						
授業計画	1 ガイダンス・現状分析：内容・評価方法説明／中華圏の現在 2 モンゴル帝国・元朝：「禅譲」のおわり／世界経済の駆動／紙幣と銀 3 元末明初：気候変動と王朝交代／現物主義財政／朝貢貿易システム 4 明中：銀の奔流と社会の流動化 5 明末清初：銀経済と格差拡大／民意と統治 6 18世紀清朝経済：銀と銅銭／新大陸産作物とフロンティア 7 18世紀清朝対外関係：海関体制の展開とほころび 8 アヘン戦争：インド・中国・アメリカ・マンチェスターとロンドン・シティ 9 同治中興：太平天国がもたらす地獄／国際金本位制／V字回復する経済 10 日清戦争と戊戌政変：「属国自主」の終わり／近代化の先達としての日本 11 辛亥革命：義和団戦争と西太后の退場／藩部の独立と民族問題／最後の皇帝 12 民国：蒋介石の台頭／貨幣と衛生の近代化／共産党はなぜ政権を取ったか 13 人民共和国：冷戦構造と最終戦争の恐怖／朝鮮戦争／中ソ対立／文化大革命 14 改革開放：雪解けと改革開放／自由と民主／リーマンショックと港澳台 15 まとめと現状分析：「清零宗」とポストコロナ（現状分析のため詳細未定） 授業アンケート 定期試験なし（コメント及び小テストで評価する）						
成績評価の方法	毎回、eAlps上でコメントの提出を求める。コメントには、質問を記入すること。感想のみの場合は評価の対象としない。なおコメントに、すでに講義で触れた内容そのままの質問があった場合、当該回の評価は著しく下がるので注意すること。コメントにはすべて返答する。返答された内容を踏まえていない場合も、評価は著しく下がる。また、小テストをeAlps上で1回行う。いずれも遡及しての入力は受け付けない。						
成績評価の基準	コメントの評価基準 1）講義内容を踏まえていること、2）内容の理解に資するような疑問を挙げていることの二点を基準として毎回5点満点で採点する。 成績評価の基準 2－15回までの合計14回分積み重ねたもの（70%）と期末小テスト（30%）をもとに東アジア世界の歴史的構造変動にかかわる理解についての評価を行う。 小テストで概ね及第点をとり、内容を踏まえたコメントを提出しているものは、「その水準にある」といえる。 小テストで概ね正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「やや上にある」といえる。 小テストですべて正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「かなり上にある」といえる。 小テストで全て正解し、内容を踏まえて当該機の歴史的展開について理解に資するコメントを提出しているものは「卓越している」といえる。						
事前事後学習の内容	下記参考書及び毎回紹介する参考文献を読み込むこと。 他の人に質問と教員による回答についても、すべて目を通すこと。 コメントの提出期限は毎週金曜22：00とする。						
履修上の注意	【この授業は、“前期（集中）”とありますが、実際には毎週e-ALPSでの動画公開・質問記入を行いながら進めていくものです】 質問が重複すると、あとから書いたものは成績評価の対象とならなくなります。これまでに出了た質問には必ず目を通してください（つまりあとから質問を入力すると大変）。なおeALPSには検索機能がありま						

	す。
質問、相談への対応	授業の前後、あるいはeAlspのコメント欄で受け付ける。 またメール（toyooka@shinshu-u.ac.jp）でも受け付ける。
教科書	指定しない。eALPSに掲載されるPDFを参照すること。
参考書	尾形勇・岸本美緒編『中国史』（山川出版社、1998年）ISBN：978-4634413306、3780円 シリーズ『中国の歴史』（新版）、第6－12巻、講談社学術文庫、2020－2021年 シリーズ『中国近現代史』全6巻、岩波新書、2010-2017年 岡田英弘『モンゴル帝国の興亡』（ちくま新書、2001年）978-4480059147 岡本隆司『世界史序説』（ちくま新書、2018年）978-4480071552 菊地秀明『越境の中国史 南からみた衝突と融合の300年』（講談社、2023年）978-4065302750 岸本美緒『東アジアの「近世」』（山川出版社、1998年）978-4634341302 そのほか、講義内で適宜紹介する。

登録コード	E5008900	開講年度	2026			
授業科目	情報機器活用論				担当教員	佐藤 和紀
英文授業名	ICT Use in Classroom				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 5 時限	対象学生
講義室	教育学びセンター 103		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				我が国の今日的な課題, 文部科学省による政策, 学校現場の授業実践を踏まえ, デジタル学習基盤を活用した授業の考え方や方向性について議論できたり説明できたりできる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				我が国の今日的な課題, 文部科学省による政策, 学校現場の授業実践を踏まえ, なぜ学校現場でデジタル学習基盤が必要なのかについて議論できたり説明できたりできる。	
(2)授業の概要	我が国の今日的な課題, 文部科学省による政策を踏まえ, デジタル学習基盤, 児童生徒の情報活用能力の育成, 生成AIの利活用について議論していく。					
(3)授業計画	第1回 ガイダンス(授業の進め方), 次期学習指導要領における議論からデジタル学習基盤と情報活用能力の重要性について知る 第1部「情報活用能力の育成」 第2回 情報活用能力とは何か知る(オンデマンド) 第3回 情報活用能力を育成するための取り組みを調べる 第4回 学校現場での実際の授業実践を知る 第5回 情報活用能力を育成するための取り組みを考える 第2部「デジタル学習基盤と個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」 第6回 デジタル学習基盤と個別最適な学びと協働的な学びの取り組みを知る(オンデマンド) 第7回 デジタル学習基盤と個別最適な学びと協働的な学びの取り組みを調べる 第8回 学校現場での実際の授業実践を知る 第9回 デジタル学習基盤と個別最適な学びと協働的な学びの取り組みを考える 第3部「生成AIと学校教育」 第10回 学校教育と生成AIの関わりを理解する(オンデマンド) 第11回 生成AIの利活用を調べる, 体験する 第12回 学校現場での実際の利活用を知る 第13回 学校教育における生成AIの利活用を考える 第14回 授業のまとめ, これからの学校教育とデジタル学習基盤の関わりや, これからの教師に求められる資質・能力について議論する					
(4)成績評価の方法	・各回の授業に関する課題(50%), 最終試験(50%) ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	「卓越している」: デジタル学習基盤を活用した授業を実現したり, 児童生徒の情報活用能力を育成するための理解が, 本授業での学習内容を多面的・総合的に取り入れたりして、さらに独自に調査した内容を極めて効果的に加えていて卓越している。 「かなり上である」: デジタル学習基盤を活用した授業を実現したり, 児童生徒の情報活用能力を育成するための理解が, 本授業での学習内容を多面的に取り入れたりして、さらに独自に調査した内容を効果的に加えていてかなり上である。 「やや上にある」: デジタル学習基盤を活用した授業を実現したり, 児童生徒の情報活用能力を育成するための理解が, 本授業での学習内容を取り入れたりして、さらに独自に調査した内容を加えていてやや上にある。 「水準にある」: デジタル学習基盤を活用した授業を実現したり, 児童生徒の情報活用能力を育成するための理解が, 本授業での学習内容を取り入れたりしている水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	・学習の交流のために, Google Chatを活用して授業を展開していく。 ・事前学習: Google Chatに掲載してある関連URLからWebサイト等を確認し, 問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。 ・事後学習: 各回の授業リフレクションをGoogle Chatに記入し, 学生間で共有する。					
(7)履修上の注意	・3年生以上の履修者は「情報通信機器を活用した教育の理論および方法」を履修済みであること。 ・各回の授業の前後にGoogle Chat にアクセスして事前事後学習に努めること。 ・各回の授業後にGoogle Chatで意見交換をすること。 ・長野県内高校生科目等履修生(先取り履修生)は, 対面またはリアルタイムでのオンライン参加とする。					

(8)質問，相談への対応及び連絡先	・ 附属次世代型学び研究開発センター2F 佐藤研究室 E-mail : sato_kazunori@shinshu-u.ac.jp ・ オフィスアワー：（前期）メール予約で随時対応 （後期）メール予約で随時対応
【教科書】	特になし
【参考文献】	以下のWEBサイトの情報を中心に進めていく。また随時，関連資料を共有していく。 文部科学省：次期学習指導要領にむけた論点整理 https://www.mext.go.jp/content/20251225-mxt_kyoiku01-000045057_01.pdf 文部科学省：中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）【令和3年4月22日更新】 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm 文部科学省：初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf

登録コード	E5017900	開講年度	2026				
授業科目	学習科学概論A				担当教員	島田 英昭	
英文授業名	Introduction to learning scienceA				副担当	安達 仁美, 佐藤 和紀, 三和 秀平	
単位数	1	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中, 不定期	対象学生	
講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	該当 備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 E カリ, 2 5 E カリ, 2 4 E カリ, 2 3 E カリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				学習科学に関する基礎的な知識を得て、教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能を身につける。		
(2)授業の概要	講義と演習により構成する。 講義では、学習科学に関する基礎的なトピックを解説する。原則としてオンライン・オンデマンドで行う。 演習では、学習科学に関するトピックについてグループワークを行う。原則として対面で行う。 【STEAM教育含む内容】						
(3)授業計画	第1部（オンライン・オンデマンド講義） 第1回：学習科学の概要（島田）【遠隔等】 第2回：深い学びと対話的な学び（島田）【遠隔等】 第3回：主体的な学び（三和）【遠隔等】 第4回：主体的・対話的で深い学びの実践と研究（佐藤・安達）【遠隔等】 第2部（対面演習） 第5回：学び方を共有しよう（島田） 第6回：興味を引く／動機づけを促す授業を考えよう（島田） 第7回：ケーススタディ（島田） 授業の進め方についての注意事項 受講者の関心や時事的な背景に応じて内容を変更することがある。 対面演習を欠席の場合には原則として単位認定をしないが、事情がある場合は個別に相談する。 授業アンケートを実施する。 授業に関するお願い 授業で得られた学習データを、教育、研究、広報の目的で利用することがあります。データは匿名で扱います。学術論文等、外部で発表することがあります。了承できない場合には個別に連絡をお願いします。了承しないことによる成績への影響は一切ありません。 教育、研究、広報の目的で、ビデオ、写真撮影を行うことがあります。ビデオ、写真を外部に公表する可能性があります。了承できない場合には個別に連絡をお願いします。了承しないことによる成績への影響は一切ありません。 学習科学関係の実験・調査への協力をお願いすることがあります。また、実験・調査に参加し結果を知ることの教育効果に対し、コースクレジットとして成績評価に参入することがあります。詳細は依頼時に説明します。依頼は拒否することが可能であり、参加しないことにより成績評価が不利になることがないように運用します。						
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 講義の振り返りとコメント（40%）、演習の議論への参加（40%）、レポート（20%） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 学習科学に関する基礎的な知識を評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】学習科学に関する基礎的な知識について、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】学習科学に関する基礎的な知識について、非常に高い水準にある。 【やや上にある】学習科学に関する基礎的な知識について、高い水準にある。 【その水準にある】学習科学に関する基礎的な知識について、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	講義について振り返りを行う。また、他者の振り返りに対してコメントする。 演習について振り返りを行う。 講義に関連する内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。						
(7)履修上の注意	長野県内の高校生による科目等履修生（先取り履修生）の対応科目です。 主に「現, 国, 英, 数, 図, 家, 心」対象（可能な範囲で他コースも受け入れ可能）						
(8)質問, 相談への対応及び連絡先	本授業の情報は、以下の「学習科学概論に関する資料」あるいは「信州大学教育学部ホームページのお知らせ」において公開する。 学習科学概論に関する資料 https://shimadahideaki.jp/lis.html 信州大学教育学部ホームページ https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/ 遠隔授業時の質問、相談にはオンラインシステム（eALPS）を通して対応する。						

【教科書】	指定しない。
【参考文献】	内容に応じて随時紹介する。

時間割コード	G2B4J101	開講年度	2026			
授業題目	ミクロ経済学入門【EA】					担当教員 増原 宏明
英文授業名	Introductory Microeconomics					廣瀬 要輔・本多 純・下平 勇太・三上 亮
単位数	2	講義期間	前期(随時)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生 県内高校生先取り履修対象
講義室		授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					経済学の基礎をなすミクロ経済学の基本的な考え方を理解できるようになる。ミクロ経済学の基本的な考え方をを用いて、経済現象を理論的に解釈できるようになる。
(2)授業の概要	まず、経済学的な考え方に関する基礎知識を解説し、その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について考えてみます。その上で、価格変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深めることとします。その後、需要と供給の理論に基づいて、現実に行われた政府の政策の効果を分析します。なお、講義は、下記の授業計画の通り、トピックス毎に、三上、広瀬（要）、下平、増原、本多の5人によって行われます。なお、この授業は全ての授業をe-Learningで行うオンデマンド授業となります。動画はLMS（Learning Management System：学習管理システムで、eALPSもしくはShinXiaのことです）に掲載します。					
(3)授業のキーワード	ミクロ経済学、市場メカニズム、需要、供給、経済政策					
(4)授業計画	第1回 三上亮 イン트로ダクション、経済学の十大原理 第2回 三上亮 経済学者らしく考える 第3回 三上亮 相互依存と貿易（取引）からの利益 第4回 広瀬要輔 需要と供給 第5回 広瀬要輔 均衡と需要曲線・供給曲線のシフト 第6回 下平勇太 需要の弾力性：基礎 第7回 下平勇太 需要の弾力性：発展 第8回 下平勇太 供給の弾力性 第9回 増原宏明 消費者余剰と生産者余剰 第10回 増原宏明 市場の効率性と余剰の計算 第11回 本多純 税金 第12回 本多純 応用：課税の費用 第13回 本多純 応用：国際貿易 第14回 増原宏明 外部性と市場の効率性 第15回 増原宏明 外部性に対する公共政策 授業アンケートを実施する					
(5)成績評価の方法	各教員の授業終了後に小テストを行い、学期末に期末テストを実施します。小テストは、LMS上で実施し、選択問題もしくは計算問題が出題されます。また学期末の期末試験についても、同様の形式で実施します。小テスト、期末試験の受験方法の詳細は、LMSに掲載しますので、必ず確認するようにしてください。授業動画では、小テストに向けた練習問題等も説明します。成績評価は、小テスト(50%)。各教員10%。ただし第14回と15回は期末試験で評価するため、小テストは行わない)と期末試験(50%)を目安に総合して行います。					
(6)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい応用問題が解ければ「卓越している」、と判断します。					
(7)事前事後学習の内容	講義の内容を理解し、単位を取得するためには、講義資料や教科書の内容を暗記するだけでは不十分です。講義に対応する教科書中の例題を実際に解いてみるなどの練習を繰り返すことが、講義内容を習得する上で役に立つはずですが、動画を全部をまとめて視聴すると大変ですので、毎週、決まった時間に視聴することをお勧めします。					
(8)履修上の注意	復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合、必ず担当教員に質問するよう心掛けること。経済学の分析による帰結は、普段、直観的にイメージしていることとは異なることが少なくありません。学習した内容をすぐに確認し、理解するように努めて下さい。小テストは、理解の度合いを試す機会と位置付けられます。小テストに関する情報はLMSに掲載しますので、毎週必ずLMSを確認してください。講義の内容については、毎回資料を掲載するほか、必要に応じて参考文献を紹介するので、それらを活用すること。					
(9)質問、相談への対応	【EA】授業であるため、メールにて質問を受け付けます。ただし、受講人数が多いため、毎年同じ質問が寄せられると、担当者が対応しきれません。皆様からよく寄せられる質問については、LMSに注意事項として掲載しています。とりわけ事務手続きについては、こちらがすべてを把握できていないので、まずは大学のホームページとLMSを熟読してください。授業内容についてわからないことがありましたら、メールで質問をお寄せください(masuhara_at_shinshu-u.ac.jp)。さらに、授業内容に関する質問については、他の学生にとっても有用であることが多いため、質問(個人情報は掲載しません)と回答をLMSに掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。(_at_ は、@に置き換えてください)					
(10)授業への出席	ミクロ経済学入門は、全ての授業をe-Learningで行う【EA】授業となります。授業動画をLMSで公開します。質問はLMSで受け付けます。また、小テスト・期末試験の日程や実施方法もLMSでお知らせします。					

(11)授業に出席できない場合の学修の補充	LMS上の授業の動画は、成績が確定されるまでは閲覧できるようにします。
【教科書】	<p>マンキュー経済学 ミクロ編（第5版） N・グレゴリー・マンキュー（著），片桐満，篠潤之介，溝口哲郎（翻訳），センゲージ・ラーニング株式会社，4,950円 ISBN-13: 978-4807918126</p> <p>ただし，講義資料と講義動画は，以下の「第4版」に基づいています。</p> <p>マンキュー経済学I ミクロ編(第4版) N・グレゴリー・マンキュー（著），足立英之，柳川隆，石川城太，小川英治，地主敏樹，中馬宏之（翻訳），東洋経済新報社，4400円 ISBN-13: 978-4492315194</p>
【参考書】	必要に応じて，授業中に随時紹介します。

時間割コード	G2B4J201	開講年度	2026		
授業題目	マクロ経済学入門【EA】				担当教員 ウェステニウス 嘉晃
英文授業名	Introduction to Macroeconomics				
単位数	2	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期
講義室		授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当
信大コンピテンシー	非該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】
	大学DP				
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				マクロ経済学の基本的な知識を獲得して、現実で観測される経済現象を解釈することができるようになる。
(2)授業の概要	この講義では、マクロ経済学の基本的な知識について、教科書に基づきながら次のとおり説明します。第一に、一国における経済活動の規模を把握するうえで重要となる経済統計について説明します。第二に、経済統計に現れる一国経済の特徴を長期的に決定づける要因について解説します。第三に、一国経済において経済活動の規模が短期的に変動する現象や、金融財政政策の短期的な効果についての解説を行います。なお、この授業は全ての授業をe-Learningで行うオンデマンド授業となります。動画はポータルサイトに掲載します。				
(3)授業のキーワード	マクロ経済学，経済統計，財政学，金融論				
(4)授業計画	第1回：日本経済の現況 第2回：国民所得の測定 - マクロ経済統計 第3回：生計費の測定 - 物価指数 第4回：生産と成長 第5回：貯蓄・投資と金融システム 第6回：失業 第7回：貨幣システム 第8回：貨幣量の成長とインフレーション 第9回：開放経済のマクロ経済理論 第10回：経済の総需要と総供給 第11回：経済活動の短期的変動 第12回：総需要に対する金融政策の影響 第13回：総需要に対する財政政策の影響 第14回：インフレ率と失業率の関係 第15回：マクロ経済政策に関する論争				
(5)成績評価の方法	小テストを3回実施し、学期末に期末テストを実施します。小テストは、ポータルサイト上で実施し、選択問題もしくは計算問題が出題されます。また学期末の期末試験についても、同様の形式で実施します。小テスト、期末試験の受験方法の詳細は、ポータルサイトに掲載しますので、必ず確認するようにしてください。成績評価は、小テスト（30％）と期末試験（70％）を目安に総合して行います。				
(6)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と判断します。				
(7)事前事後学習の内容	授業の内容を理解し、単位を取得するためには、授業資料や教科書の内容を暗記するだけでは不十分です。授業に対応する教科書中の例題を実際に解いてみるなどの練習を繰り返すことが、授業内容を習得する上で役に立つはずですが、授業動画を全部をまとめて視聴すると大変ですので、毎週、決まった時間に授業動画を視聴することをお勧めします。				
(8)履修上の注意	復習の過程で不明な点や理解できない点が出てきた場合、担当教員に質問するよう心掛けてください。授業動画を視聴したら、学習した内容をすぐに確認し、理解するように努めてください。小テストは、理解の度合いを試す機会と位置付けられます。小テストに関する情報はポータルサイトに掲載しますので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。授業の内容については、毎回資料を掲載するほか、必要に応じて参考文献を紹介するので、それらを活用してください。				
(9)質問、相談への対応	【EA】授業であるため、メールにて質問を受け付けます。皆さまからよく寄せられる質問については、ポータルサイトに注意事項として掲載しています。授業内容についてわからないことがありましたら、メールで質問をお寄せください（westenius@shinshu-u.ac.jp）。さらに、授業内容に関する質問については、他の学生にとっても有用であることが多いため、質問（個人情報掲載しません）と回答をポータルサイトに掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。				
(10)授業への出席	マクロ経済学入門は、全ての授業をe-Learningで行う【EA】授業となります（授業動画をポータルサイトで公開します）。質問はポータルサイトで受け付けます。また、小テスト・期末試験の日程や実施方法もポータルサイトでお知らせします。				
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	ポータルサイト上の授業の動画は、成績が確定されるまでは視聴できるようにします。				
【教科書】	N・グレゴリー・マンキュー（著）、片桐 満／篠 潤之介／溝口 哲郎（訳）、マンキュー経済学II マクロ編、第5版、ISBN:9784807918133、東京化学同人、2025年、4500円+ 税 ただし、授業資料と授業動画は以下の「第4版」に基づいています。				

【教科書】	N・グレゴリー・マンキュー（著），足立 英之／石川 城太／小川 英治／地主 敏樹／中馬 宏之／柳川 隆（訳），マンキュー経済学 マクロ編，第4版，ISBN:9784492315200，東洋経済新報社，2019年，4000円＋税
【参考書】	必要に応じて，随時紹介します。

時間割コード	G2B5E201		開講年度	2026			
授業題目	地球の鼓動と暮らす：災害・資源・文化を読み解く【EA】					担当教員	吉田 孝紀
英文授業名	The Earth ' s Dynamics and Human Life: Exploring Disasters, Resources, and Culture						津金 達郎
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当
備考							
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学D P 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					・自然災害の地学的背景を理解し、説明できるようになる。 ・学習結果を整理し、論理的にまとめられるようになる。 ・地域の防災・景観・文化について科学的視点から課題を発見できるようになる。	
(2)授業の概要	長野県は山岳地帯に位置し、日本の中でも地殻変動が活発な地域の一つである。。地殻変動は大きな災害を直接的・間接的にもたらす一方で、多様な地形や環境を形成し、温泉や地下資源など社会的な利益も生み出してきた。この講義では、長野県の景観を含む資源に関わる地学的環境を解説するとともに、地域ごとの自然災害について説明する。その上で、災害の教訓を伝える手段としての伝承にも触れる。さらに、具体的な事例として長野県諏訪地域を訪れ、地殻変動がもたらす資源と災害リスクの双方を理解し、地域利用と防災のバランスについて議論する。 内容は以下のとおりである。 (1)講義（オンライン・9回）：長野県の地形・地質・資源と災害伝承を学ぶ。 (2)野外演習（1回）：諏訪湖周辺の地学的特性を知り、災害と景観・地下資源、さらに地域文化との接点を学ぶ。						
(3)授業のキーワード	災害，伝承，景観，地下資源						
(4)授業計画	第1回 長野県の地質と地殻変動への招待（講義） 授業の目的、進め方、評価方法を説明した上で、長野県の地質と地殻変動について理解する。 第2回 長野県の地勢・地質（講義） 長野県の地形の特徴とその背景にある地質について理解する。 第3回 自然災害と地形・地質との関係（講義） 斜面災害や洪水、地震などの災害と地質との関係について理解する。 第4回 長野県の資源（講義） 長野県における景観や地下資源の成り立ちについて理解する。 第5回 長野県の災害と伝承1（講義） 長野県北部で生じた自然災害とその伝承について理解する。 第6回 長野県の災害と伝承2（講義） 長野県中部で生じた自然災害とその伝承について理解する。 第7回 長野県の災害と伝承3（講義） 長野県南部で生じた自然災害とその伝承について理解する。 第8回 諏訪地域の地形と資源（講義） 諏訪地域の地形と資源について理解する。 第9回 諏訪地域の災害（講義） 諏訪地域の災害について理解する。 第10回 諏訪湖フィールドワーク（室内・野外演習） 諏訪臨湖実験所での講義と諏訪湖周辺を徒歩で巡る野外演習を実施する。これによってこの地域の地学的特性と災害の痕跡について理解する。また、室内講義によって地学的特性と文化との接点について理解する。						
(5)成績評価の方法	・短いレポート（各回5点×9）45点 ・諏訪臨湖実験所での室内・野外講義レポート(室内講義と野外演習で得た情報をまとめ、諏訪地域の地学的特性と災害・文化の関係を考察) 35点 ・事後レポート（長野県の資源，災害，地学的特性の関係についてまとめる） 20点 レポートは全てオンラインで提出する。合計60点以上を合格とする。						
(6)成績評価の基準	提出物のレポート等による総合点による。 ・90点以上：卓越している。 ・80点以上：かなり上にある。 ・70点以上：やや上にある。 ・60点以上：その水準にある。						
(7)事前事後学習の内容	事前学習として長野県の地質の概要を調べる。 事後学習として諏訪での野外演習で得た情報を整理し、災害と資源の関係を考察する。						

(8)履修上の注意	最終回の諏訪での室内・野外講義は信州大学諏訪臨湖実験所で行う1日がかりの講義・演習です。午前中の室内講義と午後の野外演習からなり、動きやすい服装が必要です。雨天でも実施します。
(9)質問,相談への対応	メールで連絡:kxyoshid@shinshu-u.ac.jp へ
(10)授業への出席	9回目の対面授業以外はオンデマンドです。
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	
【教科書】	
【参考書】	

登録コード	A2Y01200	開講年度	2026				
授業科目	信州農学概論					担当教員	山田 明義 他
英文授業名	Introduction to Agriculture and Living Sphere in Shinshu Area						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学生	農学部2年生
講義室	農学部30番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2026Aカリ、2025Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】1.【教養・基礎学力】豊かな教養と農学分野における基礎学力が身についている。				⇔	信州の農林業、畜産業、食品産業の特性を説明できる	
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				⇔	信州の農林業、畜産業、食品産業の特性と、信州の自然環境との関連性について、論じることができる。	
(2)授業の概要	今日の信州の農業、林業、畜産業、醸造業について、代表的・具体的な事例を中心に解説する。また、伝統的な農林業や食文化、ならびに食品製造の分野、さらに信州の自然環境や災害についても触れる。						
(3)授業計画	<p><信州の農林業を取り巻く環境></p> <p>1. アルプスと自然：山岳・農地・都市（城田）</p> <p>2. 山地の防災：信州の土砂災害環境と対策（堤）</p> <p>3. 農山村の獣害とその対策（池田）</p> <p><森林資源とその利用></p> <p>4. 信州の林業の歴史と現状（三木）</p> <p>5. 信州の建材・木質バイオマスの活用（末定）</p> <p>6. 信州の野生きのこ資源の利用（山田）</p> <p>7. 信州のきのこ栽培の歴史と現状（山田）</p> <p><農業生産とその特性></p> <p>8. 信州の野菜（松島）</p> <p>9. 信州の作物（松浦）</p> <p>10. 信州の果樹（大迫）</p> <p>11. 信州の畜産（上野）</p> <p>12. 信州の農業経営（小林）</p> <p><農産物の加工と利用></p> <p>13. 信州の伝統的食文化（田中）</p> <p>14. 信州の醸造（竹野）</p> <p>15. 信州の食材とその応用：機能性食品（中村）</p> <p>注：15回：授業アンケートを実施します。</p>						
(4)自主学習の指針	事前事後学習を通じて、身近な農環境問題に対して日常的に注意を払うように心がけてください。						
(5)成績評価の基準	秀：授業の達成目標水準から見て卓越している。（90点以上） 優：授業の達成目標水準よりかなり上にある。（80～89点） 良：授業の達成目標水準よりやや上にある。（70～79点） 可：授業の達成目標水準にある。（60～69点） 不可：授業の達成目標水準にない。（59点以下）						
(6)事前事後学習の内容	事前学習：授業計画に挙げられたキーワードについて予め下調べを行い授業に臨むこと。 事後学習：授業ごとに設定される課題をレポートにまとめる。						
(7)テストやレポートの予定	授業ごとに課題レポートまたは小テスト等を課す。 期末テストは課さない。						
(8)成績評価の方法	授業ごとに課す課題レポートまたは小テスト等の累計100%で評価する。						
(9)質問、相談への対応および連絡先	各担当教員へ各自問い合わせる。						
(10)履修上の注意	期末テストは課さないで、毎回出席を心がけてください。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	授業の中で随時紹介する。						

時間割コード	G2B5C201		開講年度	2026			
授業題目	化学と材料の進歩が世界を変える【EA】					担当教員	渡邊真志 他
英文授業名	Revolution via chemistry and materials						
単位数	2	講義期間	前期(随時)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	全
講義室				授業形態	e-Learning 遠隔授業科目 該当	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1) 授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学DP						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				⇔	我々がこれまで直面してきた、あるいは今後直面するであろう問題に対して、化学や材料科学がどのように関係するかを理解できるようになる。	
(2) 授業の概要	繊維学部化学・材料学科の教員が最先端の研究を交えながら、化学と材料がどのように進歩し、世の中に貢献してきたか、また今後どのように発展し社会に貢献していくと期待できるかなどの将来像を講義する。						
(3) 授業のキーワード	繊維・ファイバー、生命科学・環境・エネルギー、分子機能、機能材料						
(4) 授業計画	※原則としてオンデマンド遠隔講義として提供します。 ※都合により順番が入れ替わることがあります。 第1回（概要）化学・材料領域全体の俯瞰 第2回（杉本 渉）3秒でスマホを充電！瞬間充放電を可能にする科学技術 第3回（木村 睦）色素で彩る未来社会 第4回（福長 博）燃料電池による水素社会で究極のエコが実現される？ 第5回（市川 結）電気を流す・電気で光る！有機エレクトロニクスの基礎と最前線 第6回（浅尾直樹）環境問題に役立つナノファイバー 第7回（西井良典）生物活性物質の深い話：ホルモンとフェロモン 第8回（佐藤高彰）ソフトマテリアルの機能・マイクロ構造・ダイナミクスの関わり 第9回（後藤康夫）安心・安全社会を支える高性能ファイバー 第10回（渡邊真志）各種材料からなる折り紙 第11回（荒木 潤）木材から生まれた繊維で自動車の車体を！ナノセルロースの世界 第12回（大川浩作）生物由来の高分子材料について 第13回（宇佐美久尚）光触媒の仕組みと応用：生物の光合成からのヒント 第14回（新堀佳紀）赤い光から青い光を作り出す！夢の技術：光アップコンバージョン 第15回（まとめ）最終課題／授業アンケート						
(5) 成績評価の方法	毎回の授業の際に課題を課す。また、最終回（第15回）は振り返りのまとめとして全体を通しての課題を課す。これらの課題で成績を評価する。 毎回の課題は最終課題も含めて等しく評価に反映し、次のような基準に従って判定する。 (1) 繊維・ファイバー、生命科学・環境・エネルギー、分子機能、機能材料などに関する基礎的な事項を理解し、我々がこれまで直面してきた様々な問題に対して、化学や材料科学がどのように関係するかを説明できる。 (2) 今後我々が直面するであろう持続的な社会的構築などの様々な課題に対して、化学や材料科学が今後どのように進歩・発展すると期待できるかを説明できる。						
(6) 成績評価の基準	毎回の授業の際に出される課題に対して、自分の知識や経験に基づいた考えを述べる。 講義内容をある程度理解できていれば「水準にある：可（C）」、内容を正しく把握できていれば「やや上にある：良（B）」、内容を自らの言葉で十分に説明ができるレベルであれば「かなり上にある：優（A）」、講義内容を発展させ自らの考えも展開する力があれば「卓越している：秀（S）」。 講義内容の理解が不十分な場合は「水準よりやや下にある：不可（D）」、講義内容のほとんどが説明できない場合は「授業の達成目標の水準にない：不可（F）」とする。						
(7) 事前事後学習の内容	・ 授業ごとに課題を課すので講義終了後に講義内容を振り返り理解度を深めること。 ・ 最終となる第15回は全体を通しての課題を課すので、毎回の講義ノートなどを手元に用意しておくこと。 ・ 第15回は授業アンケートを実施する。アンケートを通して自己達成度評価も振り替えること。 ※60時間以上の時間外学習が必要となります。						

(8) 履修上の注意	<p>(遠隔講義受講上の注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則としてeALPSを経由したオンデマンド遠隔講義として提供します。ただし、標準的な時間割として水曜日の2限を設定します。これは、毎週水曜2限に開講されているものと思って、なるべく毎週水曜2限に受講していただきたいという意味です（詳細は第1回の動画を参照）。 ・講義日までに受講し、教員の指定する締め切り日（指定がなければ、次回講義日）までに課題を eALPS 経由で提出すること。 ・講義を視聴しただけでは受講したとは認められません。講義の内容を理解することが目的なので、課題を提出し、その内容に応じて評価します。 <p>(世話教員からのメッセージ) 化学や材料の分野は持続可能な開発と社会を支える基盤技術として必須な学問領域である。化学・材料科学が我々の生活をこれまでどのように裕福にしてきたのか、さらには未来を支える技術・学問として無限の可能性を秘めていることを実感してもらいたい。これらに関する基礎知識を活用することにより、人類が抱える資源・エネルギー・環境問題解決への端緒が開かれることであろう。</p>
(9) 質問、相談への対応	<p>担当教員は普段上田キャンパスにいますので、講義中や講義直後以外の質問や相談は電子メールで受け付ける。</p> <p>世話教員と連絡先：渡邊真志 <mwatana[@]shinshu-u.ac.jp>（[]を除いて送信する）</p> <p>化学・材料学科の教員などは下記Webページを参照。</p> <p>http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/chemmater/</p>
(10) 授業への出席	<p>原則としてオンデマンド遠隔講義として提供します。ただし、標準的な時間割として水曜日の2限を設定します。これは、毎週水曜2限に開講されているものと思って、なるべく毎週水曜2限に受講していただきたいという意味です（詳細は第1回の動画を参照）。なお、全ての回を受講することを基本とします。</p>
(11) 授業に出席できない場合の学修の補充	<p>「学修の補充の対象とする事由」により、遠隔講義の課題の提出ができなかった場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。</p>
【教科書】	指定しない
【参考書】	指定しない

時間割コード	G0A20002	開講年度	2026		
授業題目	データサイエンスリテラシー【EA】				担当教員 平井 佑樹
英文授業名	data science literacy				鈴木 治郎, 太田家 健佑
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	集中, 不定期
講義室		授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	該当
信大コンピテンシー	該当	備考	【地域】		
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				データサイエンスの見方に沿って情報を捉えることができる。 モデルカリキュラム「基礎」においては、データの図示の中に 代表値や散布度などの統計量を読み取れる。
(2)授業の概要	<p>AI（人工知能）技術の急速な普及を背景にビッグデータの処理と活用が可能となり、データサイエンスの必要性が急速に増したことで、我が国はデータサイエンスを2025年に大学生全員が身につけるべき素養として位置づけており（参考：文部科学省「AI戦略2019」）、データサイエンス教育コンソーシアムにより学習すべきリテラシーレベルのカリキュラムも公表されました。</p> <p>本授業ではそのリテラシーレベルの学習を進めます。データサイエンスの必要性については、これからの社会のあり方を考え、そこで生活する個人の立場を念頭にいた理解を図ります。また、データサイエンスの基礎を築いていくために不可欠な統計学、情報科学、数学の位置づけを理解します。</p> <p>そのために、こうした問題を密接なものとしてとらえやすいよう、オープンデータとして提供されている実データ、とくに信州大学のある長野県の実情を明らかにするものを取り入れた多くのデータ処理結果を基本材料に進めます。</p>				
(3)授業のキーワード	問題発見・解決、論理的思考、データサイエンス、統計学、プログラミング、数理的手法				
(4)授業計画	<p>第1回：（導入）データ駆動型社会とSociety5.0 現代社会の特徴としてSociety5.0などの概念がなぜ提唱されるようになったのか全体像の把握を目指します。また経済産業省の新産業ビジョンや第4次産業革命などの理解を通じて、私たちがデータサイエンスを必修とすべき時代となった背景へのより正確な描像を築きます。</p> <p>第2回：（導入、心得）データの増大する社会とAIの必要性 データを日夜増大させ続ける社会の仕組み、とくにIoTの広がりインターネットで集積される情報を扱う分析装置としてのAIの必要性をとらえること、また、インターネット上のSNSを中心にAIの活用の仕方が情報セキュリティを含めて、私たちの社会のあり方を大きく変えつつある現状を把握します。たとえば東京五輪（2021年）のアメリカでのTV中継視聴率が前回五輪（2016年）に比べて5割近くと大きく落ち込んだのも、そうした現れの一つです。</p> <p>第3回：（導入、心得）オープンデータの活用と個人情報管理 基礎編で扱うオープンデータの活用に焦点を当て、データ駆動型社会のあり方を考えます。またデータベース管理技術の視点から個人情報管理の重要性に気づいてください。政府統計のe-statや地域経済分析のRESASにある実データは、オープンデータの一例です。 こうしたデータの取り扱いの中に、個人情報保護の技術がどう関わるかも説明します。</p> <p>第4回：（基礎、導入）1変量データから情報を得る方法の概説 代表値＊、散布度＊、箱ひげ図＊、分布の図示（＊は高校までで既習） 箱ひげ図ではとくに分布の特徴が要約されているので重要です。なお、2021年度までの高校数学Iで扱った計算法の一部は特殊であり、実際には別定義が使われています。 分布の図示を介すると、複数のデータの特徴の比較や、ビッグデータによく現れるべき分布的な特徴を読み取ることもできます。</p> <p>第5回：（基礎、導入）2変量以上のデータから情報を得る方法の概説 クロス集計、散布図＊、相関係数＊、回帰直線（＊は高校までで既習） クロス集計に伴う分割表の考え方は、私たちが統計データへの判断で犯しがちである誤認を避ける上で重要な見方です。また回帰直線は人工知能による予測技術などで多用される基本技術です。多くの実データを通じて、2変量の相関と予測との関連に触れていきます。</p> <p>第6回：（基礎、導入）図示による表現 第4回と第5回の概説を踏まえて「導入」で話題とした事例などを、適切にグラフを描くことやビッグデータによく表れる分布を通じて確認をします。</p> <p>第7回：（基礎、導入）数値による比較 第4回と第5回の概説を踏まえてこれまで取り上げた統計処理に関わる概念が、人工知能技術へいかに適用されているのかを確認します。</p> <p>第8回：（導入、基礎、心得）総括 現代社会におけるSociety5.0の概念が絵空事でないことを、基礎編で扱った事例も交えて振り返ります。</p> <p>第1回および第8回で本科目に関連するアンケートを実施します。</p>				

(5)成績評価の方法	<p>第1回から第7回まで毎回の課題ごとに10点で合計70点，総合問題（第8回）20点．</p> <p>いずれもeALPS/eChes上に課題を掲示し，eALPS/eChes上で課題を提出します．</p> <p>他に授業に相応しい良い質問に対して最大20点の加点をします．ただし全体で100点は超えません．</p>
(6)成績評価の基準	<p>60点未満：不可 60点以上70点未満：可 70点以上80点未満：良 80点以上90点未満：優 90点以上：秀</p>
(7)事前事後学習の内容	<p>毎回の授業においては，eALPS/eChes上に指示のある復習すべき内容をもとに確認問題が提供されるので，それを参考に学習を進めてください．</p> <p>授業に相応しい良い質問に対して加点があるので，提供資料を批判的に見ることを心がけてください．</p> <p>この授業は45時間の学修を必要とする内容です．</p>
(8)履修上の注意	<p>クラス指定必修科目です．授業開始日までに履修登録を済ませてください．</p> <p>eALPS/eChesに掲載した方法にしたがって課題（レポート提出または小テストの受験）があります．各課題にはそれぞれ締め切りが設定されているので，期日までに提出または受験してください．また質問に対する加点となるような良い質問を期待しています．</p> <p>授業で提供した材料で説明のあるデータ処理において，各自が実習を行う課題はありませんが，多くの課題は実行できるプログラムとして提供してあります．興味のある人は自習を進めてみてください．質問にも対応します．</p> <p>いかなる理由でも小テストを受験できなかった場合や課題を提出できなかった場合の救済は行いません．ただし，担当教員に責任ある場合や，けが・入院等の理由で本学の事務担当者から配慮依頼があった場合は適切に対応します．</p>
(9)質問，相談への対応	<p>eALPS/eChes上の掲示板およびメール yhirai[-at-mark-]shinshu-u.ac.jp によります（[-at-mark-]は@に置き換え）．研究室訪問もメールで事前に時間帯を打合せてください．</p> <p>eALPS/eChesの使い方についてはe-Learningセンターに相談してください．</p>
(10)授業への出席	<p>オンデマンドで実施するため，出欠は確認しません．</p>
(11)授業に出席できない場合の学修の補充	<p>出欠を確認しないため，原則，補充対応は行いません．出席停止等の理由で，小テスト受験・課題提出締切日の延長等を希望する者は，次のとおり対応してください．本学の事務担当者からの配慮依頼がない限り，これ以外では対応しません．</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験・提出締切日およびその前日が出席停止期間に含まれる者： 当該受験・提出締切日がある週の金曜日までに，担当教員へ直接連絡 ・受験・提出締切日およびその前日が学修の補充対象日となりうる者： 当該受験・提出締切日がある週の金曜日までに，共通教育窓口で学修の補充を申請（担当教員へ直接連絡しても受け付けません）
【教科書】	<p>指定しない．</p>
【参考書】	<p>数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムの提供するモデルカリキュラムの詳細を次の書籍で確認できます．</p> <p>北川源四郎，竹村彰通編「教養としてのデータサイエンス 改訂第2版」講談社</p> <p>-----</p> <p>本授業に関わる知識を深めるための参考書をいくつかあげておきます．また本授業の先まで学習を進めるための参考書の案内をeALPS/eChesに掲載してあります．</p> <p>久野遼平他「大学4年間のデータサイエンスが10時間でざっと学べる」KADOKAWA 倉田博史「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA 我妻幸長「Google Colaboratoryで学ぶ！ あたらしい人工知能の教科書」翔泳社 矢沢久雄他「コンピュータはなぜ動くのか」日経BP 矢沢久雄他「プログラムはなぜ動くのか 第2版」日経BP 中井悦司「ITエンジニアのための機械学習理論入門」技術評論社 浅野正彦他「はじめてのRStudio」オーム社 高橋秀一郎「e-Statと仲良くする本」NextPublishing 西田典充「Rでらくらくデータ分析入門」技術評論社</p>